

令和元年度「山形学」講座 第5回目が終了しました！

今年度の「山形学」のテーマは「みやびとあそびの山形」。第5回目は「こしらう」と題して、陶芸家のブルーノ・ピーフル氏とこけし工人の梅木直美氏を講師にお迎えし、「山形学」企画委員の加藤大鶴氏をコーディネーターに開催しました。

陶芸と工芸をなりわいとするお二人をお招きして、「みやび」と「あそび」にまつわるお話を伺いました。山形に継がれ生まれ直した伝統の魅力を、作品に込められたお二人の表現や思いから読み解くことができた大変有意義な講座となりました。

最終回は、台風19号が接近する状況での開催となりました。今回は講師が持参した作品を受講生が取り囲み、講師に目の前で作品への思いを語っていただきました。講師や作品との距離が物理的にも心理的にも近く感じられ親近感が湧いたとの感想を頂戴しました。

ピーフル氏は、益子焼を学んだ後、大石田に窯をつくり移住。実用性を重視しながらも楽しさにこだわった器や使う人の身になった既成概念にとらわれないデザインの器、自分の思いや考えを表現した作品など、大石田の土を使い独自の感性で個性的でユニークな作品を次々生み出しています。長続きするコツは「仕事だと思わないこと」。夢は「大石田を陶器の町に！」だそうです。

梅木氏は、蔵王高湯系のこけし作りをお父様より学び、伝統を活かした新しいデザインのこけし作りをなさっています。東北独自の伝統文化であるこけしの歴史や魅力、文化を支えるこけしファンやコレクターの存在などをご自身のご経験をふまえて語っていただきました。こけしを待っていてくれる人のために一本でも多くこけしを作りたいと語っていました。

今年度の大テーマ「みやびとあそびの山形」では、映像、演劇、美術、音楽、陶芸、工芸等について外部から入ってきた文化がどのように山形で変わっていくのか、山形ならではの新しい文化が生まれるダイナミズムを5回に亘って考えてきました。伝統と革新を軽やかに体現しているお二人の飽くなき好奇心と情熱に敬意を表するとともに、山形の文化の発展を考えた今年度の最終回にふさわしい講座となりました。

今後もお二人の活動から目が離せません。これからもどのような楽しい作品が生み出されるのかワクワクしながら期待したいと思います。

第5回「こしらう」

講師：ブルーノ・ピーフル氏（陶芸家）

梅木直美氏（こけし工人）

コーディネーター：加藤大鶴氏（「山形学」企画委員）

場所：遊学館3階 第1研修室

日時：令和元年10月12日（土）13：30～16：00

参加者：49名



☆令和元年度「山形学」フォーラム及び講座は、全講座終了後に内容をまとめ、講座録“遊学館ボックス”として発刊いたします。これまでの講座も冊子にしており、販売しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。